

# ステムセル研究所の清水社長 「さい帯血の保管市場、拡大余地大きい」

2021/06/17 07:00 日本経済新聞電子版 703文字

へその緒に含まれるさい帯血を保存する個人向けサービスを手がけるステムセル研究所が25日、東証マザーズに上場する。事業内容や成長戦略を清水崇文社長に聞いた。

——事業内容を教えてください。

「出産時のへその緒に含まれるさい帯血の保管を行う個人向けサービス『細胞バンク』が主力だ。大学や病院などの研究機関向けに管理する事業もある。製薬業界ではさい帯血を脳性まひなどの治療薬として使う臨床試験が進んでおり、将来を見据えて利用者が伸びている」

「国内ではさい帯血の保管サービスを手がける会社は2社あるが、当社が市場シェアの100%近くを握っている。日本では出生数あたりのさい帯血保存の浸透率は1%程度だが、東アジア諸国では20%近くあり、市場拡大の余地は大きい」

——2020年3月には新型コロナウイルス禍で一度上場をとりやめました。

「コロナ禍で市況が悪化し、個人投資家からの資金調達が難しいと判断したのが理由だ。さい帯血を使用する治療法の治験が進むなか、本来であれば需要はあると考えている。上場によって信頼性はさらに高まるだろう」

——調達資金の使い道を教えてください。

「3月にさい帯血の保管施設を増設するのに資金を使ったため、内部留保を厚くする狙いがある。3年後をめどに関西で保管拠点を立ち上げる計画があるほか、IT（情報技術）システムも刷新する見通しだ」

——整水器で国内最大手の日本トリムと親子上場の形になります。

「日本トリムの持ち分は約75%に下がる見通しだが、引き続き子会社になる。安定株主として良好な関係を保てるとみている」

——株主還元の方針は。

「当面は本業への投資を優先したいと考えている」

（聞き手は松隈未帆）



ステムセル研究所の清水崇文社長

許諾番号30082794 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.